

# 2022 校内研究について



# 昨年度の 校内研究より

## 「成果」

- ・タブレットを活用することで、  
より情報活用力の伸長に繋がった。
- ・教務部の協力で評価研修もでき情報交流となった。
- ・GIGA委員会との連携で、タブレットやICT活用の研修が充実。
- ・生徒は主体的な学習活動を意図的に組み込むことで、  
自己選択し、考える力が十分ではないが伸びた。
- ・自分の意見を持ち発信することや、  
他の意見を聞く姿勢も成長したと実感できている。

# 昨年度の 校内研究より

## 「生徒が 感じる課題」

- ・学んだことを活かすことができていないと実感
- ・計画は立てるが実行に移せない、成果がでない
- ・自主的に思考し、行動に移せない
- ・成就感や達成感が低い
- ・指示待ちで、疑問や批判的思考を持たない傾向

# 昨年度の 校内研究より

## 「教師が 感じる課題」

- ・学んだことを活かす場면을意図的に増やすこと
- ・問題解決型の学習や取組を増やすこと  
（目標を明確にし、自己分析につなげる）
- ・他者の考えや見方を知る場面をつくること
- ・自分の考えを持ち、発信する場面をつくること  
（指示待ちではなく疑問や批判的思考をもたせる）
- ・全校での取組を増やすこと  
（協力することや、グループ学習には意欲はある）
- ・自ら問題発見できる力を育てること



研究主題

**挑戦** 自ら吸収・自ら発信

学校目標

心豊かでたくましい生徒

目指す生徒像

自ら学ぶ生徒 思いやりのある生徒 強くたくましい生徒

教務部

時間を意識する

生徒指導部

挨拶・返事・思いやり

研修部

挑戦 自ら吸収・自ら発信

挑戦

# 挑戦 自ら吸収・自ら発信

---

## 【生徒】

- ・計画的に学んできた力を活かす(教務)
- ・思いやりのある発信力と表現力を、自ら工夫し育む(生指)
- ・自らの発想で様々な活動に取り組み、主体性・自主性を育む

# 挑戦

## 自ら吸収・自ら発信

---

### 【教師】

- ・生徒の発想から新しい挑戦をさせる機会を意図的につくる
- ・様々な情報や学びを意欲的に吸収し、新しいことに自ら挑戦する
- ・生徒だけでなく、職員間や保護者、地域に向けて発信する力をつける



# 主題設定の理由

昨年度の課題から、生徒と教員共通の課題が見えてきた。そうした中で、今年度の学校テーマである「挑戦」を軸に、教科だけでなく学校教育活動全般において「挑戦」を意識した研究・研修を進めたいと考えた。また各分掌で検討したテーマで「挑戦」をしていくことが学校全体の大きな成果につながると考える。

また、生徒だけでなく教師側も「自ら」という意識をもつことで、生徒の模範となり、更に自己の研鑽にも繋がり生徒に還元できると考える。

# 研究仮説

自主性や主体性に乏しいという課題には、生徒の発想を最大限活かし挑戦する場면을意図的につくることで、生徒自身が学んできた思考や技術、知識を必然的に活かすことにつながると考える。

また、自己の発想で計画的に活動することは、自主性・主体性を育み成就感や達成感につながるものとする。

さらに挑戦という点では、一人では達成できない場面が多くあり、仲間や教師など周囲の協力や助けを受け活動することとなる。そこで互いに思いやりをもって関わることが必要となり、生徒自身の心を育むことができると考えた。

# 実践計画

- ・一人1授業交流(タブレット端末の活用・挑戦を意識した授業)
- ・タブレット端末活用の研修
- ・研修部だより(必要に応じて)
- ・評価研修
- ・小中授業交流(オンライン交流の模索など)
- ・校外研修の積極的参加と還元活動
- ・各分掌での研究計画
- ・公開研究発表(感染対策を考慮した開催)

月 日	曜	研修内容	場 所	備考
4 / 18	月	校内研修計画について	職員室	
6 / 13	月	各分掌での計画	家庭科室	教務・生指
7 / 4	月	一人1授業に向けた研修	職員室	
8 / 29	月	タブレット研修	未定	GIGA
9 / 12	月	各分掌または学年振り返り・評価研修	家庭科室	教務・生指
10 / 17	月	指導案検討	職員室	
10 / 24	月	公開研に向けて	職員室	
10 / 28	金	公開研究発表	未定	
11 / 21	月	タブレット研修	未定	GIGA
12 / 19	月	各分掌の研究内容の反省	家庭科室	教務・生指
1 / 30	月	校内研修反省について	職員室	
2 / 13	月	今年度のまとめ・来年度の確認	職員室	

# 教科での研究・研修

## 【各教科】

- ・生徒自らが新しい学習に向かう場面づくり(新たな教材に挑戦)
- ・タブレットを意欲的、効果的に使用する(新たな活用に挑戦)
- ・発表や発信を意図的に組み込む(オンライン、SNS活用、交流場面など)

## 【道徳】

- ・全校での学習(オンライン外部講師など新たな教材に挑戦)

## 【総合】

- ・学年総合での新たな挑戦

## 【地域】

- ・秋祭りやアイスキャンドルの生徒協力

# 分掌での協力(例)

## 【教務】「時間」

- ・家庭学習の目標時間チャレンジ
- ・先生に聞こうキャンペーン
- ・ノーチャイム

## 【生指】「挨拶・返事・思いやり」

- ・運動会、文化祭、生徒会行事でさらなる生徒の発想を活かす

## 【研修】「挑戦」

- ・教科での新しい取り組みを推進、資料提供など

## 【学年】 ※各分掌の意向を組んで

- ・各分掌からの意向も受け、総合や行事に取り組んでいく

# 研究構造図

学校目標

心豊かでたくましい生徒

目指す生徒像

自ら学ぶ生徒

思いやりのある生徒

強くたくましい生徒

教務

時間を意識

生徒指導

挨拶  
返事  
思いやり

挑  
戦

研修

自ら挑戦  
吸収  
発信

地域

小中連携  
農園活動  
地域行事